

居酒屋「昭和」：“変えなければならないこと”と“変えてはならないこと”

昨年逝去した八代亜紀の演歌の中で、“居酒屋「昭和」”という曲があり、筆者が好きな演歌の一つです。その中の歌詞（中村正好作詞・矢代亜紀補作詞）の一部に次のようなものがあります。

男の背中にゃ 色気(いろ)があり

女の背中にゃ 艶(つや)がある

考えすぎかもしれませんが、これって“セクハラに該当する？”と考え込んでしまいました。実はこれには経緯と理由があります。

昨年 11 月 14 日に茨城県産業会館で開催した「河川堤防に関する特別講演会」のパネルディスカッションでファシリテーター（進行役）を務めていましたが、参加していた茨城大学大学院生のお二人にも名指して、質問やコメントを求めました。前もって打ち合わせをしていましたので学生さんも私も違和感はなかったのですが、講演会後の懇親会で、講演者のおひとりが「あれ（学生を名指しにしたこと）ってパワハラですよ」といわれて一瞬ドキッとして思わず「えっ？」と絶句してしまいました。講義や授業の途中で学生に対して質問や意見を求めて名指しすることがパワハラやアカハラということでしたら、昭和を謳歌してきた一人としましては、もはや、講義や授業は成り立たないのではないかと、という思いに駆られるのですが皆様はいかがお考えでしょうか？

さて、話を元に戻して、試みに件の八代亜紀の歌詞について生成 AI（GitMind Chat*）に尋ねてみました。問（安原）と答（AI）は以下の通りです。

【問】“男の背中にゃ 色気(いろ)があり#女の背中にゃ 艶(つや)がある”は、八代亜紀の『居酒屋「昭和」』という歌の一部ですが、見方によっては、性差別やセクハラに該当するという意見があります。どう思われますか？#

【答】この歌詞についての解釈は、文化的背景や個々の価値観によって異なることがあります。歌詞の中で「男の背中にゃ色気(いろ)があり、女の背中にゃ艶(つや)がある」と表現されていることは、男女の身体や魅力の違いを詩的に表現したものであり、特定の時代や文化においては、男女の美しさを称賛する意図があったと考えられます。#

しかし、現代の視点から見ると、こうした表現がセクハラや性差別と受け取られることもあるでしょう。特に、女性の身体に対する評価が「艶」という言葉で表現されることで、物理的な魅力に焦点を当てるといった点が問題視されることがあります。これは、女性の身体がその価値を決定づける要素として扱われると捉えられかねないからです。#

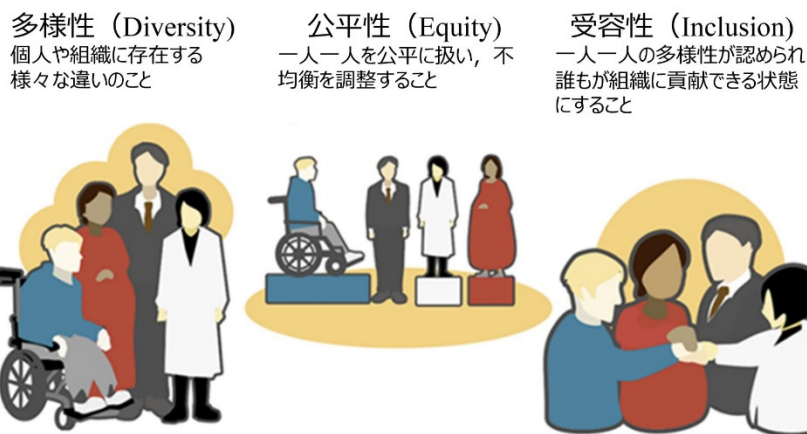
したがって、この歌詞がセクハラに該当するかどうかは、その文脈や受け手の感じ方によります。歌の意図や文化的背景を理解することも重要ですが、現代社会における男女の関係性や感受性を踏まえた意見も尊重されるべきです。社会全体が変化する中で、表現のあり方についての議論は常に続いていると言えるでしょう。#

(* GitMind Chat: 有料 (ChatGPT: 無料 とは異なる))#

生成 AI の重要な示唆は、“社会全体が変化する中で、表現のあり方についての議論は常に続けていく必要がある”といところではないでしょうか？

思えば、ハラスメントやダイバーシティという考え方や言葉は昭和の時代にはそれほど重要な課題ではなく、比較のおおらかでしたが、国際的な立場から眺めて見ますと、現在の日本はこれらへの対応が大きく立ち遅れているように見えます。さきに紹介しました 日本の SDGs への取り組み（「LRRI 会員・役員だより」令和 6 年 10 月号で紹介）に対する国際評価がそれを示す一例です。

ハラスメントを出発点として、日本でも、多様性・公平性・包括性（Diversity, equity, and inclusion: (DEI)）も強く求められるようになってきました。建設産業にもそれに対応する一層の努力が求められていると思いますが、大事なことは、上記のような“変えなければならないこと”と“変えてはならないこと”（日本的なこと（伝統や文化など）や日本人として、あるいは、人間として堅持していくべき矜持）をしっかりとわきまえて組織の運営をしていくことが重要と筆者は考えていますがいかがでしょうか？異論もあるかと思しますので会員の皆様のご意見をお待ちしています。今年もそのような場を作って参ります。



DEI とは？ (<https://social-innovation.hitachi/ja-jp/article/what-is-dei/>による)

"この年も 朝日のごとく さわやかに そう歌うよう これからも"

(代表理事 安原一哉)